

第 66 回東葛しぜん観察会

堀之内界隈の緑地と古木を訪ねる

瀬谷 昭（市川市）

日 時：2010 年 11 月 7 日（日）9:30～12:30 天気：曇り後晴れ

場 所：北国分から堀之内貝塚（市川市）

参加者：大人 12 名、指導員 14 名

担当指導員：勝田信喜、瀬谷 昭、田中玉枝

肌寒いような曇りの中から始まりましたが、日も射ってきてだんだんと暖くなり、まずまずの観察日和となり、市川市西北部の緑地や史跡・神社等をめぐり、残された自然と古木を楽しみ、昔を振り返る半日を過ごしました。

北国分駅から歩いて 5 分ほどの近くに北国分第 4 緑地があり、コナラやクヌギ・シラカシのドングリを拾って殻斗の違いなどを比べてみました。その脇のコブシの大木の花は来年是非見たいと思い、生垣のチャノキの花やその実の形から茶畑の地図記号が出来たなどと聞きながら、第 2 緑地へ。こんな巨木と驚くほど太く大きいムクロジの下でその実を拾い、石鹼代用となる果皮の泡立ちの実験。用意した去年の枯れた実で笛を吹こうとしましたが、なかなかうまく吹けません。ピーとなったら喝采でした。イヌシデやケヤキの大樹を見ながら、今は公民館として使われている禅松庵へ進み、庵が建立された 300 年ほど前に植えられたと伝わるラカンマキの太いねじれた樹や、植物で唯一劇物に指定されているシキミの種を観察しました。

堀之内貝塚でしばしの休憩と縄文時代の人たちも食べたであろう、オニグルミを石で割って手作りの楊枝での試食会。ここで食べたエノキ・ムクノキ・シイの実・クルミが一番で、自然の有難さが判り自然の大切さを感じたとの、うれしい参加者のコメントもありました。ニレ科 3 兄弟の葉などでの区別法を勉強し、貝塚遺跡を巡り、いたるところに顔を出している貝殻の多さに驚きながら、ニセアカシアの大木群を廻り、外環道路工事中の道免き（どうめき）谷津が縄文時代には東京湾の入り江の一つで、そこから貝などを採集したのかと、昔に思いをはせました。なぜかハリギリがたくさん生えている堀之内緑地を通り、最後の伊弉諾（いざなぎ）神社へ。国分村の古社で徳川家康も祭られていたので北国分東照宮とも、権現様とも言われる社の境内の 20m を越す千葉県一といわれるハリギリの古木を仰ぎ見て感嘆し、タブノキの巨木に触り、今日 5 つ目のドングリとなるアカガシのドングリを探し、サカキとヒサカキを見比べて終了しました。

参加費が 200 円になりうれしかった（100 円では安すぎて心苦しかった）との感想もいただきました。



ドングリや葉っぱの見本で観察の説明